

こんな人を市長にしよう!

1. 市民感覚・民間感覚の人…税金の無駄使いは、市民感覚・民間感覚で視ればいくらでもある筈。役所は慣例や前例主義のため気づかないし、気づいても改革しない。
2. 理念・覚悟のある人…借金まみれの千葉市の財政をどう立て直すかビジョンを示せる人。「ハコモノは止めて既存施設で間に合わせる」方針を貫ける人
3. 中央にNOといえる人…今までの市長は中央官僚→助役(副市長)→市長となった人ばかり。中央による地方支配の象徴。中央には絶対に逆らわず、負担金は中身も見ずホイホイ出してきた。
4. 「業界」に無縁な人…「業界」に縁のある人は、自己を律しているつもりでも、権力の強さに負け、いつのまにか業界寄りになってしまう。
5. 七光りの無い人…親の七光りも親分の七光りも無い人が良い。光で本人を正しく観ることができない。

中央区 T.U



千葉市に周産期母子医療センターを!

安心して出産できる環境のためには、リスクの高いお産の処置や未熟児への対応がいつでもできる高次医療施設を充実させるとともに、中規模病院や診療所との間で機能的な連携を図ることが大切です。産科を扱う市内6つの総合病院の機能役割を明確にし、設備や医療スタッフを適正に配置することで、是非とも周産期における高次医療施設である「周産期母子医療センター」の設置を目指して欲しい。

お産子育て向上委員会
小林 哲朗

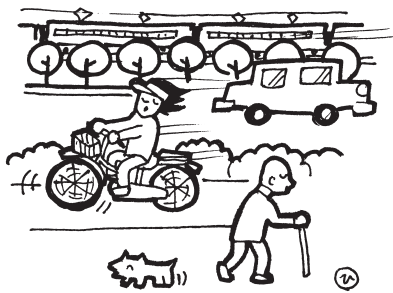


自転車と共生できるまちづくり

地球環境保護のためCO₂削減を進める欧米では、クルマの速度規制や乗り入れ規制を実施。更に自家用車の代わりに公共交通機関と自転車の利用を勧められている。千葉市でも出来るところから始めるべきだ。自転車を安全に使って、気持ちよく市民生活を満喫したい。そのためには、

1. 自転車の左側通行の徹底
2. 車道への自転車通行レーンの設置(一部、バス通行レーンとの共用)
3. 自転車関連の道交法の周知、教育の徹底が必要。

おゆみ野自転車共生会議 清水亘



市民の声が生きる 千葉市をいっしょに!

必要なところにちゃんと予算を!

子どもが通う小学校の保健室。子どもたちの健康状態を毎日記入して保健室に提出するファイルは、何年も使っただいぶ傷んでいる。養護の先生はお金がなくてなかなか買い換えられないとおっしゃる。打撲や突き指をした子に貼る湿布も、できるだけ小さく切って使っている。傷の手当てをするガーゼや絆創膏も節約している。子どもたちの健康を守るための備品くらいは必要だけ揃えておいてほしいな、と思う。学校ってそんなにお金が無いの?

稲毛区 N.T



子育てにもっと助成を

子育て支援制度は整ってきているが、利用者側の満足と提供者側の充実度はまだまだ。認可施設(保育所・保育園)と認定施設(保育ルーム)の助成の違いも、同じ子育て支援施設としては差が大きい。

市内勤務でも住所が市外であれば対象にならない。3人目は無料の認可施設に対して、認定施設では1軒につきわずか1万円の兄弟軽減。同じように保育を必要としている子どもたちのための施設のはずなのだが、現状ではとても厳しい。小学生への助成も全く無い。乳幼児の一時保育や、他の園で既に助成を受けているということで、2次保育を必要としている子への助成もなし。

病児保育も定員があってもなかなか入れない現状。もっと税金を子育て支援の現状を見て使って欲しい。

NPO法人 自然塾 たくみん

新市長への期待とエール

市長には、過去を一掃する勇気を持って、改革の先陣に立ってもらいたい。市民が支える。任期初年度は、世界不況のハリケーンのさなかで、千葉市も財政困窮からの離脱が求められる重大な時期。この機をはずして、千葉市の改革と再生は無い。

市の体制と施策のすべての籠を底から全部空けて、ガラガラポンして再構築。元市職員では、しがらみもあってできることではない。市民には選ぶ権利と支える義務がある。カンパもしよう!任期中、知恵も出して支えよう!

花見川区 神力 達夫

まず市職員から均等待遇の実現を

市の行政サービスを末端(市役所の窓口、図書館のカウンター、時間外保育、ヘルパー等々)で担っているのは、正規職員だけではなく、実は大勢の有期雇用でパート労働の非常勤職員。市当局は、経費削減を至上命題として、「福祉や社会教育」などの儲けを生まない地味な分野から、まず予算を削ってきた。

新市長には、千葉市非常勤職員に対して正規職員との「均等待遇」が時代の要請であることを感じる事が出来る人、市民の意見、非正規で働く人々の声をきく耳を持つ人を選びたい。

全統一千葉市非常勤職員組合元執行委員長
鎌倉 淑子

